

**検査結果を正しく理解して、
健康に長生きをしよう**

2021年度健康祭

中央検査部

心臓の検査



・CK

心臓や筋肉に存在し、エネルギー代謝に関わる酵素
これらの細胞に異常があると高値になる

・CKMB

心臓に存在し、心筋梗塞で高値になる

・AST、LD

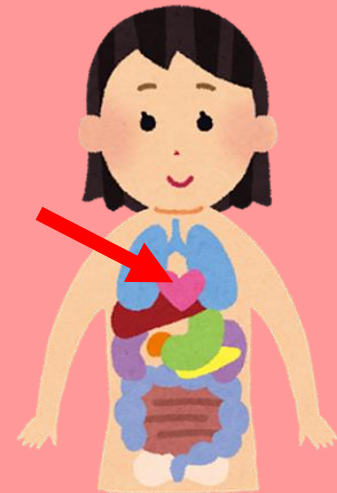
心臓に多く含まれている酵素
悪化すると増加する

・BNP

心臓から分泌されるホルモン
心臓にかかる負担が増えると高値になる

・トロポニンI

心筋梗塞などで高値になる



肝臓・膵臓の検査

・総蛋白(TP)

血液中の総たんぱく質
栄養状態や慢性の炎症が関係

・アルブミン

肝臓で作られるたんぱく質
肝臓の働きの障害などで低下する

・AST

肝臓の働きの指標
肝臓以外の病気でも増加する

・ALT

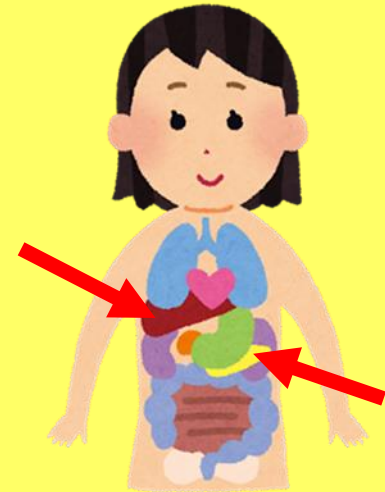
肝臓に最も多く含まれる酵素
肝臓の働きをよく反映する

・ALP

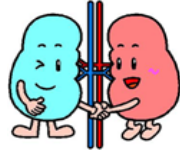
胆道疾患で増加するが骨の病気や子供の成長期にも増加する

・アミラーゼ

唾液腺や膵臓が障害により増加する



腎臓の検査



・尿素窒素(BUN)

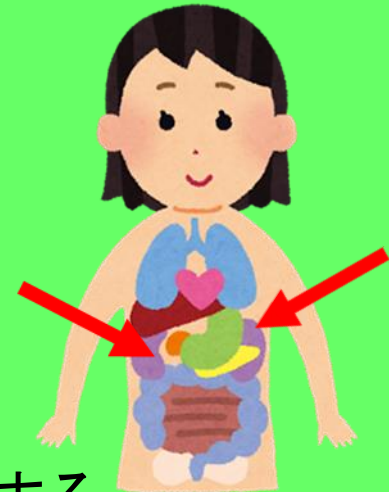
腎臓が悪くなると増加する
食事など他の影響も受けやすい

・クレアチニン

腎臓が悪くなると増加する
他の影響を受けにくい

・尿酸(UA)

腎臓の働きの悪化だけでなく痛風でも増加する



その他

・CRP

炎症、癌などで増加する

血液の検査

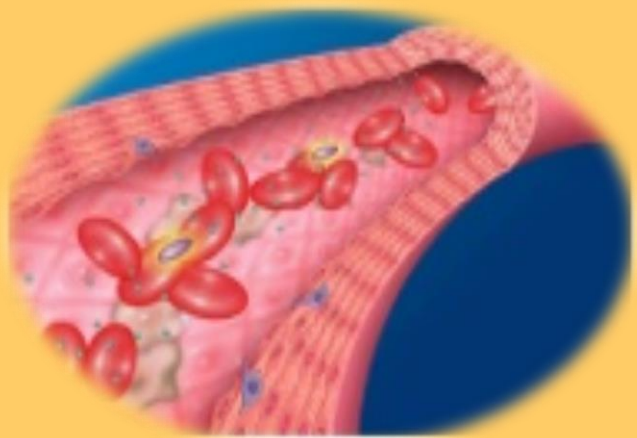


・白血球数

炎症や白血病などで増加する
抗がん剤副作用などで低下する

・血小板数

低下すると出血しやすくなる



貧血に関する検査項目

・赤血球数

貧血で減少し、赤血球増加症で増加する

・ヘモグロビン

赤血球中の酸素を運ぶ物質

・ヘマトクリット

赤血球の大きさの指標

・MCV

赤血球の大きさの平均

・MCH

赤血球中のヘモグロビン量の平均

・MCHC

赤血球の色の濃さの平均

腫瘍マーカー



CEA

大腸、胃、肝臓などの消化器系がんで高値。

CA19-9

消化器系がんの中でも膵臓がんで高値。膵臓、胆道で高い陽性率を示す。

CA15-3

乳がんで高値。他に卵巣がん、子宮がん、肺がんで高値。

AFP

肝臓がんで高値。がん以外の肝臓疾患などでも高値を示す。

シフラ

肺がん（特に扁平上皮がん）で高値を示す。

CA125

卵巣がんで高値。子宮内膜症、子宮筋腫、妊娠、子宮体がんでも高値を示す。

PIVKA-II

肝細胞がんで高値。

フェリチン

造血系の腫瘍（白血病、骨髄腫など）で陽性になる確率が高く、肝がん、膵がん、肺がん、卵巣がんなどの多くのがんで高値を示す。

PSA

前立腺がん、前立腺肥大症で高値を示す。

SCC

扁平上皮がんで高値。肺や子宮頸部の扁平上皮がんのほか、食道の扁平上皮がんでも高値を示す。